

私は1966年(昭和41年、丙午)に埼玉県内で生まれ、父の仕事の関係で東北・北海道で過ごしました。体が弱く、一人っ子で社会性に乏しい私が今のような人間になれたのは、北海道の自然の中でボート部員として鍛えられたこと、山に分け入り地質調査を学んだからだと考えています。卒業後は札幌で勤務することを優先し、勤めた会社

で地質調査の基礎である地表地質踏査の技術を学んだり、温泉・地下水調査のための物理探査を経験しました。現在勤務する会社では土木関連の地質調査に従事しています。この業界に入り間もなく20年になりますが、様々なジャンルの仕事に携わることができたのは幸せな経験だと思います。

縁あって大学には5年間いましたが、教授はよく我々に『答えはフィールドにある』とおっしゃっていました。日々の仕事、特に現場後のとりまとめ作業をしていて、もう一度コアや現地を確認したいと思うたびに先生のこの言葉を思い出します。昨今、プレゼンテーションの出来ばえや、本質とは関係のない部分で我々の成果が評価されることがあります。表現する能力が必要であることは否定しませんが、結果に至る事実の究明、原因の考察にこそ我々技術者の醍醐味があると考えます。私もそれを念頭におきながら、これまでの経験を生かし、ゼネラリストである“歌って踊れる”技術者を目指したいと思いません。

亀山 聖二 (かめやま せいじ)

● 応用理学部門(地質)

勤務先

株式会社 タナカコンサルタント
写真：笹流ダム前にて



➡ 次号は、平川泰史さん(応用理学部門)

私は岩手県の釜石という港町で生まれ育ち、現在は札幌の建設コンサルタントで港湾・漁港施設の構造設計に携わっております。実家は、釜石港から歩いて5分の立地なのですが、釣りをしたこともなく、港や船舶に興味を持ったこともなく、残念ながら港町育ちの経験が今まで仕事に活かされたことはありません…

地元の釜石港は、津波の被害が多い三陸沿岸に位置していることから、津波対策として耐震設計が取り入れられた港口防波堤が整備されております。この仕事をして初めて知ったのですが、この施設は世界最大水深(-63m)の防波堤で、地元にある唯一の世界一の様です。今年2月のチリ中部沿岸地震の津波に対しても、港口防波堤は津波の波高・流速に対する低減効果があったことが発表されました。

港湾においては、地震や津波に対して釜石港の港口防波堤の様に津波の威力を直接低減する施設の他に、大規模地震発生時の緊急物資や避難者の海上輸送を確保するための耐震強化岸壁があります。道内に数ヶ所整備されている耐震強化岸壁のうち、私は幾つかの施設の設計を担当させて頂きました。これからも、この様な施設整備に携わることにより、港町や漁村の地域住民が安全安心に暮らせる生活環境の整備に少しでもお役に立ちたいと思います。

高橋 功 (たかはし いさお)

● 建設部門(港湾及び空港)

勤務先

北日本港湾コンサルタント 株式会社



➡ 次号は、平 成晴さん(建設部門)